

ユネスコ第一回世界無形遺産宣言【能楽】

平成三十年度 第二回

大阪定期能楽公演

能 通小町

狂言 水掛聲

仕舞

能 天鼓 弄鼓之舞



会場 大槻能楽堂 TEL. 06-6761-8055

平成30年9月1日(土) 午後1時開演

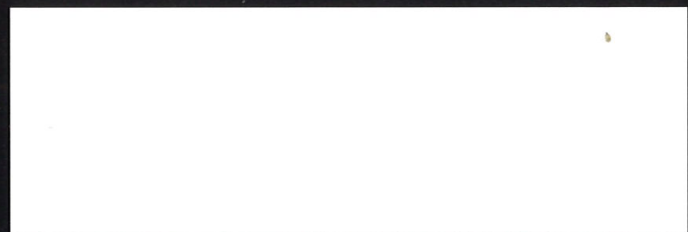
全自由席	(開場は1時間前)
入場料	前売 5,000円 学生 2,500円
(税込)	当日券 5,500円 学生 3,000円

年間回数券 (3枚綴り) 15,000円 (税込)

* 天災等によりやむなく中止、順延の場合もあります。
 * 券の申し込みは出演各能楽師、公演会場、連絡所、
 ローソンチケット(Lコード52719)へお申し込み下さい。

主催 梅 猶 会

お問い合わせ



梅猶会事務所 梅若方
 〒665-0867 宝塚市売布東の町15-26
 電話・FAX 0797(87)2446



平成三十年 九月一日(土) 午後一時始

第二回 大阪定期能楽公演

能

里女 立花香寿子

深草少将ノ怨霊 池内光之助

通小町

僧 江崎正左衛門

大鼓 上野 義雄
小鼓 荒木 建作

笛 貞光 義明

後見 岡田 晃一
梅若 猶義

地謡

梅若雄一郎 今村 哲朗
小川 晴子 梅若 堯之
山田 薫 梅若 基徳
上野 朝彦 大西 礼久

《休憩 10分》

十四時十分頃

狂言

水掛罨

罨 善竹 隆平

妻 上吉川 徹

勇 善竹忠一郎

後見 上西 良介

仕舞

江口 キリ 赤瀬 雅則
歌占 キリ 梅若 基徳

忠度 梅若 猶義

地謡 小松 勝憲
井戸 和男
梅若 堯之

《休憩 10分》

十五時頃

能

天鼓

弄鼓之舞

前王伯 井戸 良祐
後天鼓

勅使 江崎欽次朗

大鼓 山本 哲也 太鼓 上田 慎也
小鼓 上田 敦史 笛 赤井 啓三

間 勅使ノ従者 善竹 隆司

後見 赤瀬 雅則
梅若 善高

地謡

梅若雄一郎 立花香寿子
小松 勝憲 岡田 晃一
上野 朝彦 井戸 和男
今村 哲朗 大西 礼久

附祝言

十六時過ぎ 終了予定

主催 大阪梅猶会

能 通小町(かよいこまち)

京都の八瀬に住む僧の元へ毎日本木の実などを届ける女がいるので不審に思い尋ねると、市原野に住む「小野小町」であることをほめかして消え去っていきます。僧は市原野に行き小町の霊を吊っている、回向を喜ぶ小町が現れます。しかしそこへ深草少将が土の中から現れ、小町一人だけの成仏を妨害しようとしています。僧は少将が生前小町に恋し「百夜通い」をした有様を懺悔に見せるようになります。少将は九十九夜に及ぶ苦難を語り、そして最後は二人共に成仏出来て救われます。

題名から見ると小町が通ったようにも見えますが、「小町のもとに通った深草少将」です。小町の言うことを信じて通い、しかも最後の日に正装までしたのに本意を遂げられず亡くなるなんて悲し過ぎます。ですが肝心の小町は曲中で「もとより我は白雲の(知らない)」と他人事のように、その後も二人の温度差はかなりあるようです。でもそのような人だからこそ堪らなく好きになってしまうのかも知れません。

狂言 水掛罨(みずかけむこ)

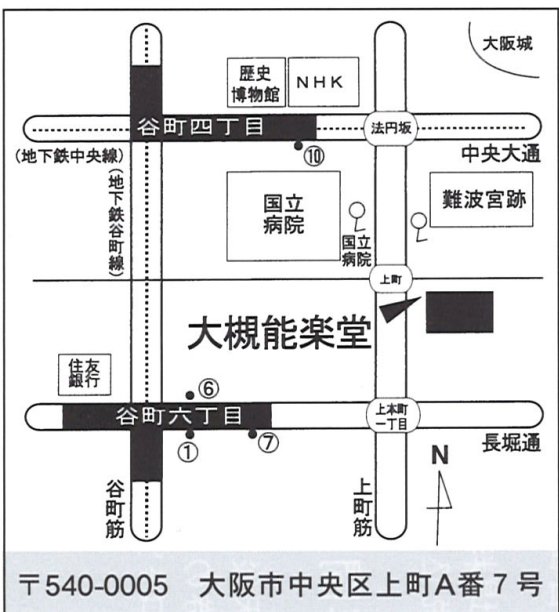
罨が田の見回りにくると、水が隣の舅の田に取られていくのに気がきます。そこで、畦(あぜ)をきって水を自分の田に引き、よそを見回りにいきます。つぎに、同じように見回りにきた舅は自分の田に水がないのに気がつき、罨の田から水を引き返すと、水を取られないよう番しているところ、再び見回りに戻ってきた罨があらわれて水を引こうとし舅と口論になります。妻が駆けつけ仲裁に入るので、

能 天鼓 弄鼓之舞(てんころうのまい)

王伯、王母の夫婦は、天から鼓が降ってきて体内に宿る夢を見て生まれた子を「天鼓」と名付けます。夢の通り、天鼓は妙なる音色の鼓を打ったので、帝からその鼓を献上するよう命じられますが、拒んだ天鼓は呂水という湖に沈められ殺されてしまいました。その後鼓は音が出なくなり(能はここまでをワキの語りですすめていきます)、帝は王伯を参内させて鼓を打たせようとします。恐れ躊躇した王伯でしたが、覚悟を決めて打った鼓は妙なる音を響かせました。親子の情が天に通じたものと感動した帝により、天鼓の法要が営まれ、喜ぶ天鼓の霊が湖面に舞い鼓を打ちます。

この能は「親子の愛情」というものがテーマでしょう。前後二段物ですが、通常のパターンのようにシテは同一人物ではなく前は「親」、後は「子」です。前段は帝の命令を背いた事によって子供を殺された親の気持ちとその帝に盗られてしまった鼓が鳴らない為に自分が呼び出され、その鼓が鳴ったとき感じる親子の絆、後段の帝の回向を感謝し鼓を弄び鳴らし舞う少年との対比が観る側として面白く観れるのではないかと思います。演じる側はそのどこに重点を置くかで表現方法に個性が出る能ではないかと思えます。この物語の奥に隠れていると思われる「権力者の理不尽による殺人」残された親の持つて行きようのない心の叫び「父と子の魂の触れ合い」「権力に負けない真の芸術性」など現代にも通じるとてもメッセージの多い曲ではないかと思えます。

小書「弄鼓之舞」では、前シテ父王伯の装束が唐物調に、後シテの舞は「黄鐘楽」から特殊な「盤渉楽」に替ります。「楽」の途中橋掛かりに行き、舞台上の鼓を見込んだ後にその鼓を打つ演出などがあります。



〒540-0005 大阪市中央区上町A番7号

第3回 予告

平成30年12月2日(日)
午後1時開演
大槻能楽堂

能	仕舞	狂言	能
龍虎		腹不立	自然居士
井戸 猶義	梅若 堯之 梅若 修一 小川 晴子	善竹 彌五郎	梅若 基徳